

発達のなかの

煌めき

第Ⅱ部

発達的共感が創り出す実践

—歴史に学び、今をみつめ、
未来を創る

白石正久 白石恵理子

しらいし まさひさ／1957年、群馬県生まれ。小児科病院の発達相談員などを経て、現在龍谷大学名誉教授。

しらいし えりこ／1960年、福井県生まれ。大津市発達相談員などを経て、現在滋賀大学教育学部教授。

「おとうさん　おかあさん　せんせ
い　ちいきのひとたちが　しょめいあつ
めてようきゅうにいった　あしのわるい
ぼくだつて　ねたままのいづみちゃん
はいれるがつこうつくろうと　ぼくもて
がみをかきました」。この歌は、一九
六年開校（本格開校は一九七〇年）の
京都府立与謝の海養護学校の開校五年目
に創られました。当時の高等部生が中心
になつて創った歌（当時は校歌）でした。

今回は、与謝の海養護学校開校までの

経緯を、運動の中心を担った青木嗣夫（一九二八～九五年）から振り返ります。青木は、教育実践においても、学校設立運動においても、「要求に学ぶ」ことを徹底的に大切にしてきました。この連載においても、子どもの発達のねがい（要求）を深くとらえることの大切さを述べてきますが、「要求に学ぶ」とはどういうことなのか考えます。

三一年も先延ばされた義務制実施

一九七三年発刊の『育ち合う子どもたち』（ミネルヴァ書房）では、その序文で教育学者の矢川徳光が、エンゲルス（ドイツの思想家）から引用しています。「例外なくすべての子どもにたいして、

かりですし、もう一年、何とか少しでもしつけをしてその上で（就学を）考えたいと思います」と話します。その子は、オムツをして、毎日紙やぶりをし、タオルをしゃぶっているという子でした。当時、養護学校はまだありませんでしたので、障害児学級（当時の「特殊学級」）の先生が入級をすすめるのですが、ご両親は就学猶予の手続きをとりました。就学猶予・免除の制度は、親が、わが子の発達や教育の可能性を信じることを閉ざす制度でもあったのです。しかし翌年、遅れの入学となります。入学後、わが子が「実にびっくりするような変化」を見せていくなかったで、お母さんは「どんなおくれた子どもにも学校が必要だ」と確信をもつようになります。養護学校設置運動に関わっていきます。教育委員会や知事との交渉のなかで、「母親としておねがいするということではなく、子どもに代わっての要求なのです」と迫ります。ご両親はきっと、全面介助を必要としているわが子に愛情深く接し、子どもを「しつける」のは親の責任だと思つてこられたのでしょうか。しかし、学校で親以外の人間関係のなかで少しずつ変わっていく姿を

国家の費用で一般教育をどこで「べきである」。この教育は、すべての子どもにたいして平等であつて、各個人が社会の自主的な成員として行動する能力をもつようになる時期までつづけられる「人間はだれでも自分の能力を完全に発達させる権利をもつていて」と。当時（十九世紀中葉）は、幼児であつても、利潤をあげるために労働力とみなされる時代でした。そうしたなかで、エンゲルスたちは、「例外なくすべての子ども」の「自分の能力を完全に発達させる権利」の実現が、「国家の費用」で保障されねばならないと主張したのです。

わが国では、戦後、新しい日本国憲法のもとで、すべての子どもが天皇や国家のためにではなく自分のために教育を受けられるようになりました。しかしながら、多くの障害のある子どもたちは、就学猶予・免除制度によって、この当たり前の権利をはく奪され続けました。養護学校教育の義務制、すなわち、都道府県が養護学校を設置する義務の実施は一九七九年度になります。戦後すぐにできた学校教育法第七四条に都道府県の養護学校設置義務が明記されているにもかかわらず、施行期日を定める政令が出されな

いまま、「施行する」という文部大臣の約束も反故にされ続けて、学校教育法制定後、実に三一年間も先延ばされたのです。その三一年間は、全国各地で、障害児者、父母、教師等関係者たちが運動を開いていた月日であつたとも言えます。その粘り強い運動によつて、京都では一九六九年に与謝の海養護学校が開校し、東京では一九七四年に希望者全員就学が実現しました。与謝の海養護学校の『学校づくり宣言』には、「この学校は、すべての子どもにひとしく教育を保障してほしい」と要求する障害児の父母と、障害児教育に直接かかわっていた障害児学級担任を中心とする、地域ぐるみの十余年の運動の中で設置をかちとつた学校である」と書かれています。しかし、その学校づくりの道のりは決して平坦ではありませんでした。

就学猶予・免除制度が
もたらしていたこと

新入生の身体検査の日、多くの子どもたちがお母さんに手をひかれ目を輝かせて学校に集まっているなか、ある障害児のお母さんは「このまま入学させたお友だちや先生に迷惑をおかけするばかり